

本稿は私自身に言い聞せるものである。個別の誰かを、あるいは、特定の寺社施設を対象としたものではない、いかがわしい宗教と距離を置くための自戒である。いわば、被洗脳未然防止の精神方策の一旦である。

「神・仏・キ」に実現力はない！ ^{N o n} 崇仏敬神の思想・姿勢は偶像崇拜であると断じている。

もともと、現実の何とか宗教のいかなる説教も、当該宗派の金の損得勘定に毒されたよれよれ人間が説いているに過ぎない。神社・仏閣に向かって柏手を打つ、合掌する等の読誦・勤行も偶像崇拜の何物でもない。勤行の内容やお賽銭の多寡^{た か}によって、あるいは信仰心の浅深によってご利益^{りやく}があるとかないとか、そんなことは何の意味^なを生し得ない。そんなことで実利を手中に出来ることは絶対にない、「神・仏・キ」頼みは迷信であり、断言出来る。すなわち『崇仏敬神＝偶像崇拜』の等式成立である。そこで宗教の真の実力とは如何に、である。もしも、神社仏閣にお参りして実利を得られるのであれば、誰も労働することは即座に止める。

考えてみるに、そもそも、「仏様（仏陀）は私（この仏）を崇めよ、神様（天神地祇）は私（この神）を敬え」とは一言も言っていない。言ったのは、言っているのは神職・僧職・聖職——宗教宗派を職業とする生身の汚れ切った娑婆界に生きる人間が自己保身で発した言葉である。

1. 「神・仏・キ」は無力、その1

図－1にあるとおりの山口住職が語っている「**仏教で感染が広がる現実を変えることはできません。**」のとおりである。「仏教」の文字を“世界の全ての宗教宗派”と置き換えることが出来る。

要は、神社・仏閣にどのように向き合うかは、山口住職のおっしゃられるとおりの「心の持ち方」なのである。つまり、「自分の今のあり様を見詰めることの修養道場」だと思っている。もっと簡単に言うと『公序良俗に背かない生き方を自分に誓う』『人間としての善良な生き方を自身に誓う』『自身に縁ある全ての人・社会に感謝する』という心を持った祈りのありや否やである。

この世の娑婆の宗教者は、みな“宗教自体は無力”と認識しているはず、至極当然である。仏像に向かって、神鏡に向かって、十字を切って、わずかばかりのお賽銭を放り投げて、手を合わせて頭を垂れただけで、それだけで自己欲望が叶えられる、ある

不安に負けない心の持ち方

新型コロナウイルスの感染拡大で、将来への不安を感じている人も多いだろう。だが、未来のことは誰にも分からない。プラス思考で生きるための心の持ち方について、インターネット上で連載している浄土真宗本願寺派、超勝寺(山口市)の住職、大來尚順(おおき・しょうじゅん)さんは「確かなのは『今』。そこに集中して生きることが大切です」と語る。

「今」に集中して生きる



浄土真宗が生まれた時代は、社会が飢饉や疫病などで混然としていた。同様に感染症が広がる今、大來さんの元にも多くの人が救いの言葉を求めに来るという。「仏教で感染が広がる現実を変えることはできません。でも教えを説き、視点を換えることで現実に向き合えるよう、皆さんの心に寄り添うことに努めています」

「現状に満足する『少欲知足』を心掛ければ、苦しみは減るはずだ」と話す大來尚順さん＝千葉県浦安市

2020(R2)0511(月)山新

▶▶▶ 山口の住職 大來さん

図－1

いは災難を回避出来る現実ではない。神・仏・キが自分の命に直接影響を与えることは微塵もない。影響あると思うのは、自分の思い込みに過ぎない、あこぎから騙されて洗脳されたからである。娑婆の何とか宗教に入信してご利益があったと他言するが、それは、自分が勝手に思っている——洗脳されて妄想していることに過ぎない、なぜならば、他人にも同じ様な相当の影響があるとは限らないのが何よりの客観的証拠である。神仏キに何かをねだって『棚から牡丹餅』式に実現することは、この現実社会では科学的に絶対に起り得ないことなのだ。ご利益があったと思うのは自身の心理が作り出している架空のものである。妄想は、ただでさえ実態がない心のさらなる映像なので実態とは程遠い幽霊の世界である。

私が思う本当の信仰心とは、金銭財貨とは一切無関係で、損得勘定下心のない、かつ純粋な『真善美』を希求する自己対話の精神作用であろう。

屁理屈はどうでもよいが、神・仏・キに向き合う私の気持ちをあえて言うならば次の二つの素晴らしい和歌の心にある。

- ・西行の伊勢神宮参拝時の「なにごとのおはしますかは知らねども かたじけなさに涙こぼるる」
- ・貞明皇后(大正天皇の皇后)の「キリストも釈迦も孔子も 敬ひて 拝む神の道ぞたふとき」

2. 「神・仏・キ」は無力、その2

他力・他者依存のあげくに人生転落のこと。

(1) ご利益がない

社寺の賽銭泥棒は時々ニュースになるが、図-2のような「参拝してもご利益がない」から放火したというのである。この人はかなり強い意思を以って神様に縋ったのではないかと思う。これは「神社に祀っているという神様は見えないが、見える物体ではないが、私の願いを聞いて実現してくれる魔力があるはずだ。」と確信した——本人は気付かないが——からこそ「あれだけ通い、一所懸命祈ったのに、俺の言うことを聞いてくれない。」と逆恨みした、因縁を付けたという事象である。

(2) 神仏に縋って破産の事例

私の会社現役時代の上司であったF. Sさんは、山形旧市街地内に豪華な家が付属した100坪ほどの邸宅を購入した、同人病氣死亡の後に息子がうつ病にかかり、色々な病院に通院したが治癒せずに、母子共にある神社の神主と寺院の住職を頼り、それでも飽き足らずある祈祷師に縋った、言葉の一字一句を信じ切り、騙されたことに気付かず言われるとおりに一心に祈った、そして、寄進・寄付は指示されるままに提供した、最終的には、土地・建物を離さざるを得ないほどの大金を吸い取

神社放火「ご利益ないから」

山形市の天満神社に放火したとして、非現住建造物等放火罪などに問われた住所不定、無職高橋宣直被告(55)の第2回公判が17日、山形地裁であった。検察側は放火の動機について、日頃から神社に願掛けしていたが、ご利益がなかったために火を付けたと説明した。

冒頭陳述などで検察側は、高橋被告は借金や職場の人間関係でストレスを抱えていたと指摘。状況を改善しようとして月3回、天満神社に参拝していたが、「ご利益がないと感じ、騒ぎを起すことで気分を晴らそうと放火した」と説明した。

山形地裁公判 検察側が指摘

起訴状などによると、今年4月9日午前9時5分ごろ、同10分ごろ、灯油を染み込ませたトイレットペーパーなどが入ったごみ袋を社殿軒下に置いてライターで火を付け、壁や床の一部を焼いたとしている。

高橋被告は2014年12月と今年6月、寒河江市の路上で女性の尻をたたいたり、腕をつかんだりしたとして、強制わいせつと暴行の罪でも起訴されている。

非現住建造物等放火と暴行の罪は起訴内容を認めているが、強制わいせつ罪は一部否認している。

2017(H29)1018(水)山新

図-2

られ搾取された、詐欺にあってしまったのである。そして、日々の生活費にも困るようになった、あちらこちらから借金をするようになり、自己破産した。親戚や知人・友人との一切の縁を断ち切り、みすぼらしいアパートの一室に身を隠した。その家族は惨めな晩年になったという噂（事実）がある。

祈祷師（詐欺師）の類は、実態のない神仏の霊力というものを巧みに利用し、善悪・正邪の間のグレーゾーン^{なりわい}を生業として生きる輩であり、イコール今様の裏街道の暴力団である。彼らはあまりにも社会悪の権化みたいなものであるから、それを隠しつつファジーな領域で生きるがために「似非（似て非なるもの）者」と「偽（本物でない）者」であることを隠し、正義の仮面を被って表に出るのである。断るが、真っ当な神職や僧職のことではない。揶揄すれば、「ニッチ（隙間）市場」で活躍するしたたか者である。新興宗教の活動も同様・類似の面がある。

自分人生の成り行きの裁定を神仏の霊や祈祷師という他人に任せる、丸投げ、放り出すわけだから、人生無条件降伏・人間無条件降伏である。自己破産や自死に追いやられるのは必然である。他者依存型の他力信仰は自助努力の放棄であるから自業自得で財産は消滅するというのは天地の法則である。

3. 「神・仏・キ」は無力、その3

昔から全国各地にある「火防・火伏の神」信仰のこと。個人や地域の火防守護を期待して、秋葉大権現信仰の秋葉講や日本武尊信仰の古峯講が発生したが、願い叶わず火災が頻発したのは広く承知のとおり。火防・火伏の神はなぜ無能・無力なのか、言うまでもなく実現力を持たない偶像だからである。

図(表)－**3**により私の居住地近郷における主要寺院の火災の事例について触れる。寺社は燈明^{とうみょう}（みあかし）という火を灯すが、その関係者は次の2点に期待し、その実現を妄想する。

- ・火は闇（無明）を照らす智慧の光とされる。
- ・浄火と云われるように禍事・罪穢^{まがごと つみがれ}を払い除ける力を持っているとされる。

火は燃える・燃やす能力はあったとしても、人間的智慧や科学的除災力を有するものではない、往古からそうなのだ。しかし、それらを妄想し火を多用することから常に火災の危険と裏腹にある。寺の僧職の自業自得というものである。

所在地区	寺院名	火災年
平清水	耕龍寺本堂と庫裡が全焼	昭和 54(1979)年
平清水	平泉寺大仏堂火災消失 〃 客殿火災消失	天保三（1832）年 天保八（1837）年
上桜田	耕源寺本堂庫裡全焼	文化年間(1804 年から 1818 年) 明治四（1871）年六月七日
岩波	石行寺本堂火災消失	宝暦年間(1751 年から 1763 年)のはじめ
図(表)－ 3		

ここで取り上げたことのみならず、全ての寺院・神社が祀るご本尊・祭神には元々仏光神威と云われるもの（実力）は実在・実存するものではなく、偶像・迷信^{たぐい}の類である。よって、願い空しく火災に遭遇してもそれは神様が悪いのではなく、人間側に失火という原因がある。よって、神仏への祈願・礼拝は偶像への依頼ではなく、自分自身への「防火の実行」という宣誓でなくてはならないのである。火防・火伏の神通力は近代的な防火能力に勝ことはあり得ず、昨今は消防施設や防火態勢が充実しており、神様に頼

る必要がなくなったはずだが、相も変わらず信じている人が数多いことだろう。

4. 「神・仏・キ」に実現力^{N o n}はない！

元々、神社（実際は神鏡・御幣等を置いているのみ）の神様や寺院（実際は金属や木造の仏像があるのみ）の仏様に霊力・神通力なる魔力は形として実存しない。仮に、実存ではなく、精神的にある、としても、人間の意思・欲求を叶える実現力はまったくない。はっきり言えば、神社や寺院は物理的な建造物に過ぎない。神社寺院（墓）、仏壇・神棚、祭壇と称する所に置く神仏の掛け軸、飾り物などには「靈魂」なるものは形として入っていない。形として客観的に見えない。それは偶像・装飾品に過ぎない。それらは単なる物だからこそ美術工芸品とか文化財というのであって、霊を指すことはない。それらに実現力があるものとしてそのものを信じ切るというのであれば、迷信の何物でもない。頼って、祈願しても何も実現はしない。これは冷酷な現実である。仏光神威というのが、客観的に存在するものではなく個人的な観念・観想の世界でふる。

ある人が「月はそこにあるから見えるのではなく、月として見たからそこにあるのだ」と言われたという、つまり、こちら側の意思で存在するのか、存在しないのか、になるという。そのとおりである。

✓¹ 「心ここにあらず」では見えない。私の経験から、民地の駐車場から右折しながら大通りで出た時に、相手車両の運転席側後部に軽く衝突してしまった。もちろんきちんと「右見て、左見て、もう一度右を見て」車が来ないことを認識して、いわゆる左右の安全確認を行い出たはずなのに。相手にぶつかって初めて「何でここに車があるのだ！」と思った。厳然と物がそこに「あった」のに、「心ここにあらず」だから

「ない」^{N o n}となった。

✓² 私とは反対に、神仏に霊力がある、と信ずる人には「ある・いる」となる。私は「ない」と強弁してもその人には「ある」のである。

神仏に霊力の「ある・なし」は人それぞれの認識にある、しかし、科学的・客観的な実現力はない。つまり、別の人が同じことを祈願したとしてその通りにならない、第

三者が客観的に再現出来ないものは科学的には「ない」^(Non)

のである。よって、神仏は「サムシング・グレート」

（何か偉大なるもの）なのであるが、残念ながら人間の欲望を決して実現してくれない。

5. 「はったり宮司、生臭坊主、ゴロツキ祈祷師」^{なまぐさ}

図－4 はその極一例。他にもこの宗教者に係る数多の逮



図－4

捕事件が発生している。ネット上に無数書かれている。私は、世の中には権威主義の胡散臭い4雑種が住んでいると揶揄しているが、その中にメジャー三大宗教「神・仏・キ」の神職、憎職、聖職の一部不届き者を「はったり宮司、生臭坊主^{なまぐさ}、ゴデグスケ牧師、ゴロツキ祈祷師^{えせ}」（似非宗教者）と称している。人前では「神・仏・キ」の何たるやを説く宗教者がこのごまである。一部の人であろうがなかろうがこの体である。特殊スキルを持つと自認するのであれば、宗教者は、真善美を極めた教育者でなければならない。宗教者はそれぞれ神の、仏の、キリストの真の代弁者でなければならない、みな、人前では「俺は神の、俺は仏の、俺はキリストの使いだ！」と豪語している、声に出さずとも顔と態度に丸出しである。ところがやることは、道徳や倫理規範を外れた輩^{やから}も多々（数え切れぬほど沢山）いる、娑婆のそんじょそこらの人間と何ら変わりはない、浅薄・狭隘な独善的知識を振り回しているに過ぎない。私の節穴だらけの人生経験でも胡散臭い宗教者を見るとピーンと来る。“これらは一部の者だ、全部にそのようなレッテル張りするのは遺憾である。”と吠える声が聞えるが、私如き小心者に難癖を付けること自体が狭量である、レッテル張りされなくなかったら、「私から褒められるように精進努力して立派な人間になれ！」である。

胡散臭い宗教者を図-5でイメージしている。ましな宗教者はAパターンとBパターンを往来してイメージである。ところが、大方は気が狂ってしまい、自分は大衆・一般民衆から遊離し、神様・仏様・キリスト様と同格のつもりになっているのである。自惚れ・傲慢・慢心の極致にいるのだが、本人は気付かない。しかし、私には臭う、悪臭が漂う。

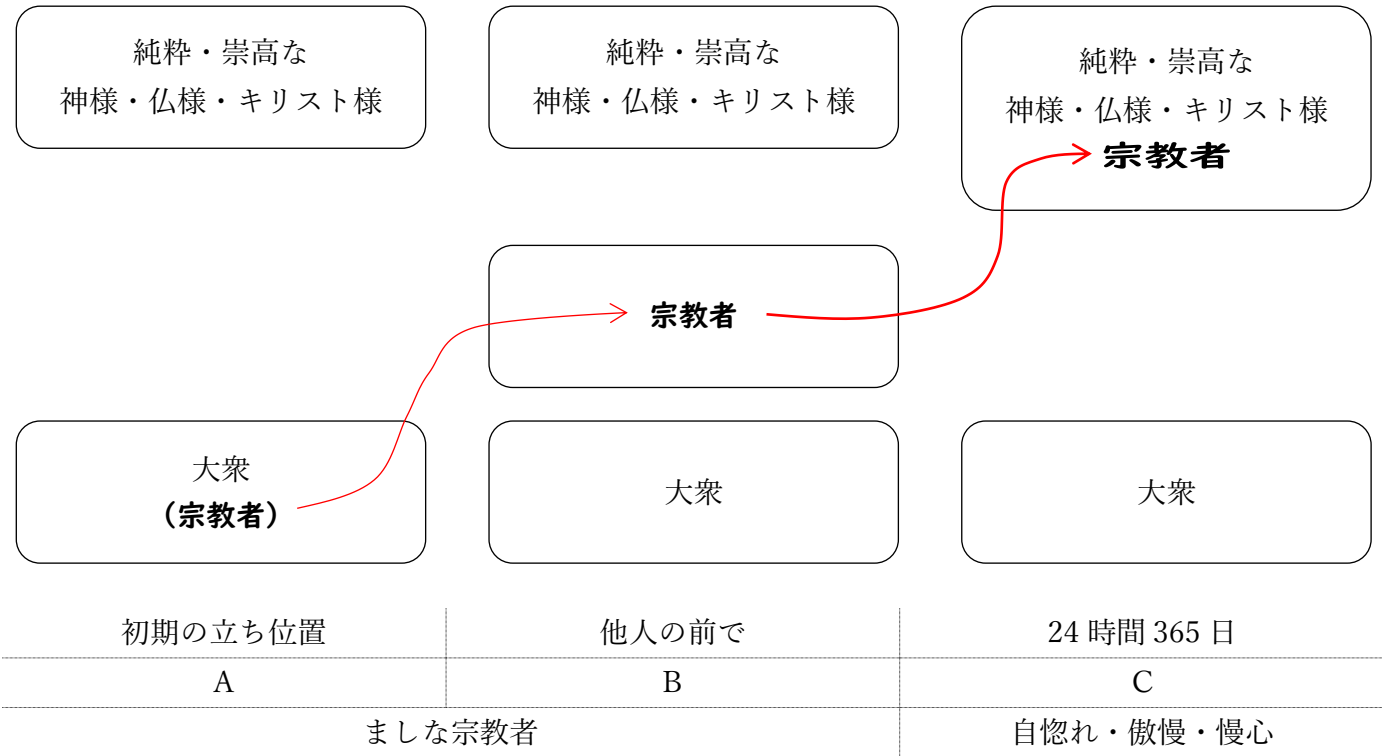


図-5

宗教者に要求するレベルがある。それは「至高の真善美の実践者」であり、かつ、「至広の寛容性の持ち主」であり、かつ、「有言実行の人物」である、ならば私は尊敬する、賛辞を贈る、敬愛を表明する。“私も生身の人間だ”などと逃げるのであれば、宗教主たる資格なし^{N o n}であろう。

本源の神様・仏様・キリスト様は、人間を仕分けたり、仕切ったりはしないが、人間臭の似非宗教者は自分の思い込み（自身限定の価値基準）で偉そうに裁判官気取りで他人に説教し、他人を仕分けるようになるものだ。

6. 雑感

その1；「偽善」のことが浮かぶ。日常生活において、「祈ったのにご利益がない」の心情に至る心模様と非常に似ている事象がある。「俺はあんなにあなたを心配してやったのに、あれほどお土産をやったのに、あれほど物心両面で支えたのに、あんなに愛情を注いだのに——人間味がない、裏切りだ。」などと「何々してやったのに！」と愚痴る態度がよくよくある。もしも、親しいと思われた間柄において、知人・友人の人間関係において、商取引でもなく、まったくの下心もなく、純粋に「無料・ただ」で何がしかを差し出した瞬間に、それは「無償の提供、奉仕の心」の博愛主義・無償ボランティアのはずである。ただし、その「心・言・行」には「絶対的真実」が裏付けられている前提が必要条件である。ところが、何かのきっかけで（ちょっとした心のすれ違いや誤解で）冷ややかな関係になったと仮定するが、それまでの諸々の心配りを「何々してやったのに！」と公言し、罵倒するようになる、こうなれば、あの時の心は「偽善行為」「善意の押し付け」「生き方の物差しは損得勘定」であったと自ら公にした、証明したことになる。これがやっかいである。偽善を「受けた」方（人）は、「何がしかをしてくれ」などと相手に頼んでもいないのに、「お前は人情がない、誠意がない。」などと相手から誹謗中傷で恨まれるようになるのである。そのような偽善を仕掛ける魔物・邪心は、以外と「偉い」と自惚れている人、「何がしかの長」を冠に被っている人に内在——前記、「生臭坊主やイカサマ神主やデグスケ牧師にゴロツキ祈祷師」に共通——している場合が多いと見ています。なぜ人はそうなるのか、「自分は組織を動かしている→意思を通せる→人を動かせる→俺の言うとおりになれ！」となるからである。社会通念と倒錯するからである。

その2；2014（H26）年10月、山形県内新庄市内でのこと、路傍に佇む小さい^{やしろ}社に入っている石像を眺めていた時のことである。近くの女性が寄って来て次のような話があった。「（女）貴方はどこの宗派を信仰しているのか？」「（私）格別ない。」「（女）やたらと、そんじょそこらにある神社やお寺や路傍の石像・石碑などを拝んではいけない、拝むとその神・仏^{かみ ほとけ}があなたに取り付いて離れなくなる。時にはその神・仏^{かみ ほとけ}が気に食わないと悪さをするようになる。・・・」「（私）神社・仏閣にある物、あるいはその仲間は全て偶像崇拝の道具である。私にはそんなことはない！」と言い放ってやった。その女性はどのような身分なのか分からないが、そのような脅かしとも言える言葉でしか身が持たないイカサマのゴロツキ祈祷師だろうと直感した。生半可に信仰心のある人はこのような脅迫と真逆の甘美の言葉に騙されやすいのだ。

その3；宗教者を語る上でとても印象的なことがあります。橋下徹弁護士——2008年第52代（民選17代）大阪府知事就任（当時38歳）、2011年第19代大阪市長就任。知事経験者が政令市長に就任したのは史上初。2015年大阪市長任期満了——が大阪市長時代、公明党から約束を反故されたことに対して「**宗教の前に人の道があるだろう**」と話されていた。周知のとおり公明党の後ろ盾は創価学会である、表裏一体である、公明党は、表向きは政教分離を主張しているが嘘付きの政教一致の関係だ。好き嫌いは別として、全ての宗教団体および宗教者には、橋下さん同様に「宗教の前に人の道があるだろう」と言いたい。人を教導して行く宗教者は、公僕たる公務員の上にいる存在、社会に取って最高の人生教師でなければならない。

会社勤務時代のことが浮かぶ、「組織人なる前に一般常識を弁えた社会人たれ。」という組織風土を持っていた。繰り返すが、つべこべ他人を説教する前に日本国民・社会人として、

- ① 社会通念
- ② 善管注意義務
- ③ 公序良俗

の3要件をきちんと弁えた普通人でなければならない、これさえも理解・実践出来ない者は一番ややこしい人間を善導するなどとは不可能である、宗教者を即刻廃業すべきである、しないというならば、私がレッテルを張り、SNSに垂れ流してやろうか。

その4；宗教関係者の中には“我々だって生身の人間、完全ではなにいわ”と弱音という居直りとか言い訳を張る人と複数と会っている。人間であるからにはその通りで完全な人間はいない、しかし、**宗教者として他人の前で、大衆の前で、立派なことを垂れたら、そのとおり100%実行し、実現を図ってその姿・形を衆目に晒せ**と言いたい。神仏の仲介者としての自負心があって立派な言語を持って垂れた訳だから、有言実行ならずしては、人前で立派な事をほざくと言いたいものだ。

その5；崇仏敬神＝偶像崇拝と称して、この世の宗教者に冷たい視線を寄せる理由は、胡散臭いにも係らず、大半が属しているだろう宗教法人の恩恵を受けているからである。現行法では、宗教法人が行う宗教活動は公益性が高いとされ、宗教法人の寺院や神社などが檀家や氏子などから受け取る布施・戒名料や初穂料は非課税である。そうした中での係る職業人の不祥事を見聞きするにつけ、そんな資格を与えてはならないのである、何が公益性かと問う者である。

7. 宗教の無力の証明

2019年12月初旬に、中国の武漢市で第1例目の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が報告されてから、わずか数カ月ほどの間にパンデミックと言われる世界的な流行となった。わが国においては、2020年1月15日に最初の感染者が確認され、大騒ぎのうち今日に至っている。世界中の宗教者はこぞって収束・終息の祈りを捧げ、祈願・祈祷の儀式を執り行い、信者や宗教心のあるなしに係らず祈って来た。しかし、同ウィルスの完全消滅・皆無は無いだろうと言われていとおりでである。

「毎日、神・仏・キの祭壇に向かって、お祈りしているがさっぱり効かないではないか？」と妻からからかり揶揄われる。これこそが、「宗教は無力」であることを80億人皆が疑う余地無く判断している。似非宗教者よ、どう答えるか？ 答えられないだろう、もしも、言葉を発したとしてもそれはいわゆる詭弁であって真理・真実ではまったくない。世界中の宗教者は「偶像崇拝を真実かのように言って来たが、それは詐欺であった。」と素直に認めるべきである。

吾が家では毎日朝、食事前に神棚・仏壇にご飯をあげて、私と妻が並んで私が勤行の務めを果たしている。妻がある時次のようなことを発した “ 信仰心（宗教心）と一致する科学的根拠がないわね！ ” 言葉使いは少しおかしいかもしれないが、要は「これだけあれだけコロナ終息を世界中でお願いしているのに、神様・仏様は言うことを聞いてくれないわね、宗教の実現力を裏付ける科学的根拠はないということ

を自ら暴露したみたいなのだね。神様・仏様がコロナの弱点を見付けていれば、そこを徹底的に攻撃、破壊すればこと足りののにね。」「元々、神・仏はこの世に実存しないから、コロナを退治するという科学的根拠は元々ないのだよ！」という会話があった。

世の似非宗教家よ、どう答えるか？

私は自宅では、毎日、自宅の神・仏・キの祭壇に向かって勤行し、神社仏閣に行けば柏手を打って、合掌しているが、あくまでも、心の中は「崇仏敬神はすなわち偶像崇拝」「崇仏敬神＝偶像崇拝の等式成立」と断言している前提で、私の崇敬・崇拝・拝礼（崇仏敬神）の形は、いわゆる外形・外姿のみで体裁を整えているに過ぎない。

神社仏閣に向かい拝礼する時は目をつむるが、その時は、心の中にUターン・ブーメラン現象の動きが生じて、“今の自分はなあに？”という自問である。するとパッと浮かぶのが、“自分を自分が縛っていないか？ 自由か？”である。神仏に頼む、願う、すがるといようなことはまったく浮かない。

・・

ただし、一つだけ希望はある。神仏に具体的な実利を求めて祈願した時、こちら、すなわち自分自身の心が神仏と一体化なされれば現実化してくれるだろう。“神仏と一体化”とは自分自身が神仏の心を持つことであり、すなわち、我執（俺がオレ我）をすっかり粉碎し、分別知なる我執から完全に抜け出すことである。そうすれば祈願はそのとおりに実現されよう。もう少し具体的には別記する。

人間は、理屈なしに「崇仏敬神はすなわち偶像崇拝」「崇仏敬神＝偶像崇拝の等式成立」を前提として・根底に据えて生まれて来たのである。今、成人としてこのことを認識出来ないというのは、よほど精神が腐食・腐敗、破壊された証拠である。

神様・仏様・キリスト様という言葉はあっても、その精神を表す現物はこの世に無いのだ、したがって、職業宗教者（神職、僧職、聖職）の言うもっともらしい弁舌は、その発言者のまったくの私見なのだ、こんなことが理解出来ない人は、みな騙される、そして、一生を棒に振るのだ。

今でも、アレフや統一教会等の新興宗教に係る社会問題は消えないが、『崇仏敬神＝偶像崇拝』であることを、幼児教育、義務教育、青少年教育、社会教育において啓発・啓蒙を図って行く必要がある。

私の根本にある思想信条、宗教心は「天は自ら助くる者を助く」であり、以上のように職業宗教者（神職、僧職、聖職）の弁舌をそもそも信用・信頼していないので私は騙されること、洗脳されて心が壊れることはない。

しかし、中には、誠に立派な職業宗教者もいるだろう、それならば、私は心から尊敬する、最大限の賛辞を贈る。私はとても厳しいことを記述して来たが、現実の娑婆の見方は、あなた方は道徳的・倫理観の高い持ち主であり、その実践者たることを期待しているのだ。

私の記述に文句があるならば、自分の胸に手を当てて、一点の曇りもない、やましいことはないということを天地天明に誓い、起請文に書いてから参らねたい。「先づ魄より始めよ（先從魄始）」という格言を披瀝し、大衆に説教しているのは貴方様方ではないか。私に言う前に、神・仏・キと同等の精神と行動を発揮してから、私の処に来て来られたい。そうならば、私はころっと変心し、全幅の信頼を寄せるものである。

(end)